

企業局第 4 次経営計画の進捗管理

内 部 評 価 用

《 電 気 事 業 》

令和 8 年 9 月 7 日

経 営 計 画 委 員 会

目 次

山口県企業局第4次経営計画の実施状況（電気事業）・・・・・・・・・・	1
------------------------------------	---

《目標管理カード》

経営管理指標	評価結果					
	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	
（電気①）経常収支比率	A	B				・・・ 2
（電気②）供給力向上事業進捗状況	B	B				・・・ 4
（電気③）脱炭素社会実現貢献度	B	A				・・・ 6
A：計画を上回る	1	1				
B：ほぼ計画どおり	2	2				
C：計画を下回る	－	－				

山口県企業局第4次経営計画の実施状況（電気事業）

山口県企業局第4次経営計画（計画期間：令和元年度～令和10年度）に掲げる計画を着実に推進するための経営管理指標の実施状況は次のとおり

経営管理 指標	内 容	実 績						
1 経常収 支比率	・ 電力システム改革を踏 まえた新たな契約に基 づく売電 ・ 収支計画に基づく適正 な収入の確保、経費支出 の効率化、計画的な施設 整備 ・ 効率的な発電の実施	(%)						
		年度	R6	R7	R8	R9	R10	
		目標	110	110	110	110	110	
		実績	120.85	104.7				
		差	+10.85	△5.3				
2 供給力 向上事業 進捗状況	・ 供給力向上事業の計画的な推進 ➤ 佐波川発電所リニューアル ➤ 新阿武川発電所リパワリング	(進捗管理)						
		発電所		R6	R7	R8	R9	R10
		佐波川	目標	—	—	設計	設計	設計・製作
			実績	—	—			
		新阿武川	目標	設計	設計・製作	製作	製作・据付	試験
			実績	設計着手	設計			
3 脱炭素 社会実現 貢献度	・ 脱炭素化の取組に関心 がある県内企業等に対 するアプローチによる 「やまぐちぶちエコで んき」の加入促進	目標：県内供給実績 16,808MWh 以上 (MWh)						
		区分	R6	R7	R8	R9	R10	
		実績	5,995	17,789				

目 標 管 理 カ ー ド（電気①）

令和7年度

経営管理指標		経常収支比率	
担 当 班		経営・技術企画班、発電班、（総務・予算班）	
取 組 方 針		・ 電力システム改革を踏まえた新たな契約に基づく売電 ・ 収支計画に基づく適正な収入の確保、経費支出の効率化、計画的な施設整備 ・ 効率的な発電の実施	
主 要 目 標		経営の健全性の確保	
目 標 値		1 1 0 %	
効 果		経営基盤の強化	
年 度 別 進 行 状 況			
年度	取 組 内 容	取 組 実 績	効 果
6	・ 新たな契約に基づく売電の開始 ・ 収入の確保、支出の効率化、計画的な施設整備 ・ 効率的な発電	・ 長期安定的な経営ができるよう、売電方法や契約条件等を見直した新たな契約に基づく売電を実施 ・ 容量市場への適切な対応 ・ 他事業体の動向など情報収集 ・ 「施設整備 1 0 か年計画」の着実な実施 ・ 発電停止期間の抑制	目標・収支計画を上回る経常収支比率 120.85% (計画比+11.95 p)
7	・ 売電方法及び契約条件等を見直した、新たな売電契約の締結 ・ 収入の確保、支出の効率化、計画的な施設整備 ・ 効率的な発電	・ 高い単価で売電するために、一般競争入札を導入（売電先の経営の健全性を担保するために入札参加資格を設定） ・ 容量市場への適切な対応 ・ 「施設整備 1 0 か年計画」の着実な実施 ・ 発電停止期間の抑制	概ね収支計画どおりの経常収支比率 104.7% (計画比△0.96 p)
8			
9			
10			

1 年間計画（評価を受ける年度に係る計画概要）

- 安定経営の確保に向け、売電方法や契約条件等を見直した新たな売電契約を締結
- 施設整備 10 か年計画に基づく計画的な施設整備の実施
- 気象予測に基づくダム貯留水の有効利用等による効率的な運転の実施

2 達成度分析（項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析）

項 目	計 画（※）	実 績	差 異
経常収支比率	105.66%	104.70%	計画△0.96ポイント
経常収益	2,092 百万円	2,051 百万円	△41 百万円
（主な減少理由）			
電力料	(2,009 百万円)	(1,947 百万円)	(△62 百万円)
経常費用	1,980 百万円	1,959 百万円	△21 百万円
効率的な発電	発電計画会議の実施	発電計画会議を実施し、過去の流況や気象情報を基に運用計画を策定	

※令和7年度収支計画の数値

3 事業評価

年度	R6	R7	R8	R9	R10	
評価	A	B				A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり C・・・計画を下回る ※目標値を参考にした基準による評価

【計画と実績の差異分析】

- 経常収益については、降水量が平年を下回ったことによる電力料収入の減少などにより、令和7年度収支計画を41百万円下回る見込み。
- 経常費用については、概ね令和7年度収支計画どおりの見込み（△21百万円）。
- これらの結果、経常収支比率については、令和7年度収支計画の値を0.96ポイント、目標値を5.3ポイント下回る見込みとなっているが、ほぼ計画どおりとなっている。

4 課題及び問題点／今後の事業展開

【課題及び問題点】

- 安定的な経営を確保するためには、より高い単価で売電することが重要である。

【今後の事業展開】

- 売電収入の安定化を図るため、オーバーホール等による発電停止期間を考慮し、計画的な発電を行う。
- 気象予測に基づくダム貯留水の有効利用等による効率的な運転の実施に加え、更なる発電量の増加を図るためダム運用高度化の試行を実施する。

目 標 管 理 カ ー ド（電気②）

				令和7年度			
経営管理指標		供給力向上事業進捗状況					
担 当 班		発電班					
取 組 方 針		対象発電所における供給力向上事業の進捗管理					
主 要 目 標		供給力向上事業の計画的な推進					
目 標 値							
		年度	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
		佐波川	—	—	設計	設計	設計・製作
		新阿武川	設計	設計・製作	製作	製作・据付	試験
効 果		既設発電所の電力量増加					
年 度 別 進 行 状 況							
年度	取 組 内 容		取 組 実 績			効 果	
6	新阿武川発電所におけるランナ・ガイドベーン製作工事（設計業務～R7）		・製作工事にかかる発注手続に着手 ・物価高騰の影響により設計・製作工程の見直しを実施			・発注仕様書を作成 ・設計・製作工程を見直し （5か年計画⇒4か年計画）	
7	新阿武川発電所におけるランナ・ガイドベーン製作工事の実施		・製作工事にかかる契約の締結 ・ランナ、ガイドベーンの設計計算書・設計図面を作成			・設計計算書・設計図面の作成を完了	
8							
9							
10							

1 年間計画（評価を受ける年度に係る計画概要）

- 新阿武川発電所のランナ・ガイドベーン製作工事の実施

2 達成度分析（項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析）

項 目	計 画	実 績	差 異
新阿武川 発電所	ランナ・ガイドベーン 製作工事の実施	・ 発注及び契約締結 ・ 設計計算書・設計 図面の作成を完了	・ 契約締結を行い、図面 の作成まで完了した （物価高騰の影響によ り、令和6年度に見直 した設計・製作工程ど おり）

3 事業評価

年度	R6	R7	R8	R9	R10	
評価	B	B				A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

- 新阿武川発電所のランナ・ガイドベーン製作工事について、令和6年度に見直した計画どおり、発注及び契約締結を行った。
- また、設計計算書及び設計図面の作成も完了し、令和10年度の試験実施に向けて順調に事業を進めている。

4 課題及び問題点／今後の事業展開

【課題及び問題点】

- 最近の著しい物価高騰の影響下において、施設整備10か年計画を着実に実施していくことが必要である。

【今後の事業展開】

- 昨今の物価高騰下においても、施設整備10か年計画を着実に執行していくため、施設整備の実施手法や実施時期等についても工夫しながら、取り組んでいく。
- 新阿武川発電所のランナ・ガイドベーン製作工事に係る国庫補助金は、毎年度の出来高に応じて補助金を交付する仕組みであることから、事業期間中の国庫補助金の着実な予算措置及び予算枠の拡充について、政府要望等の機会を通じて要望していく。

目 標 管 理 カ ー ド（電気③）

			令和7年度
経営管理指標		脱炭素社会実現貢献度	
担 当 班		経営・技術企画班	
取 組 方 針		脱炭素化の取組に関心がある県内企業等に対するアプローチ	
主 要 目 標		「やまぐちぶちエコでんき」の加入促進	
目 標 値		「やまぐちぶちエコでんき」の県内供給実績 16,808MWh（「やまぐち維新でんき」2022（令和4）年度実績）以上	
効 果		・ 県内の再生可能エネルギーの普及及び地産地消の推進 ・ 県内企業の環境意識の向上	
年 度 別 進 行 状 況			
年度	取 組 内 容	取 組 実 績	効 果
6	脱炭素化の取組に関心がある県内企業等に対するアプローチ	○情報発信（HP、デジタルサイネージ等） ○PR活動 ・ 経済団体等の加盟企業 ・ 県関係企業（県施設指定管理者、地域活性化包括連携協定企業等）	加入数： 9 社 17 事業所 供給実績： 5,995MWh
7	脱炭素化の取組に関心がある県内企業等に対するアプローチ	○情報発信（HP、主要交通拠点等でのPR動画放映等） ○PR活動 ・ 経済団体等の加盟企業 ・ 県関係企業（県施設指定管理者、地域活性化包括連携協定企業等） ○加入者等へのフォローアップ ・ R8以降の契約案内、追加プラン案内	加入数： 36 社 61 事業所 供給実績： 17,789MWh
8			
9			
10			

1 年間計画（評価を受ける年度に係る計画概要）

- 「やまぐちぶちエコでんき」の情報発信
- 脱炭素化の取組に関心がある県内企業等に対するPR活動

2 達成度分析（項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析）

項 目	計 画	実 績	差 異
「やまぐちぶちエコでんき」の供給実績	16,808MWh 以上 （「やまぐち維新でんき」R4 実績以上）	17,789MWh	+981MWh

3 事業評価

年度	R6	R7	R8	R9	R10	
評価	B	A				A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

- 令和6年2月に新たに創設した「やまぐちぶちエコでんき」は、令和6年4月以降供給を開始し、令和7年度末時点、36社61事業所に対して17,789MWhを供給。
- 県内企業等へのアプローチに積極的に取り組んだ結果、目標値を上回る状況となった。

4 課題及び問題点／今後の事業展開

【課題及び問題点】

- 脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの地産地消を推進するため、引き続き、加入促進に向けた取組を行う必要がある。

【今後の事業展開】

- 売電先と連携した情報発信のほか、主要な交通拠点等でのPR動画の放映など、各方面への周知・働きかけにより、「やまぐちぶちエコでんき」の認知度向上に取り組む。
- 令和8年度からは、再エネ比率100%のプランに加え、再エネ比率を指定（30%以上）できるプランを提供し、より幅広い県内企業に対し加入促進を図る。